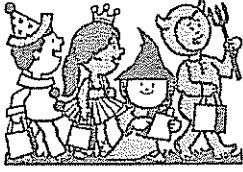
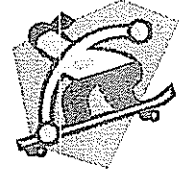


主催：Let's talk すずかの子ども実行委員会  
(鈴鹿市PTA連合会、三重県教職員組合鈴鹿市支部)  
後援：鈴鹿市教育委員会



子どもたちの笑顔を見るために



第7回

# Let's talk すずかの子ども

やっぱ、おとなが語り合わなきゃ

## 報告集



開催日 2006年11月26日(日)

会場 県立鈴鹿青少年センター

## A分科会 テーマ 「食生活からの警鐘」

助言者 鈴鹿医療科学大学 堀田 千津子さん

### 1 助言者の話の要旨

- 健康とは・・・「健康とは単に病気ではない、また虚弱ではない、といったものではなく、身体的にも精神的にも社会的にもよい状態である。」(WHO 世界保健機構)
- 健康に関する法規・・・健康増進法 (H.14.8月公布) 栄養改善法 (S.27)  
「自分の健康は自分で守る」というところから食育基本法 (H.17.6) ができた。  
食育とは・・・生きる上での基本であり、知育、徳育、体育の基礎となるもの。色々な経験を通して、食育に関する知識と食を選択する力を習得する。

### ☆キーワード

健康 (自分の健康は自分で守る)

日々の食生活の反省→ 一年間、食生活を見直すことにより、次の一年間は保障される。

### 2 分散会での話し合い

#### 〈分散会①〉

- ・朝食を食べるということは、一日のエネルギーの元になる。
- ・朝食を食べることで、脳の活性化を促進する。
- ・朝ごはんを食べない子とキレる子の関係→朝食の内容も関係している。
- ・朝ごはんを食べない子が増えてきている中で、「ヘルシーピープルみえ・21」では、2010年までに、中学生・高校生の欠食率を 4.5%→0%に・・・ 本当にそうなるのか?!
- ・テレビ etc からの情報量の多さにかなり振り回されている。
- ・自分でできることから少しずつ改善しないと何もできない。
- ・ [ お金を払っているのだから、「いただきます。」は言わなくてもよい ] テレビ番組での発言に  
[ まずい給食に給食費を払うのはおかしい。 ] 啞然とした
- ・通学距離により、給食時間の工夫はできないものか?
- ・小さい頃から、おまけ付のハンバーガーを食べて育った子どもは、大人になっても好んでハンバーガーを食べる。→舌がその味になじんでいるため、手作りのもののおいしくないと感じる。
- ・国民全体がカロリーを取りすぎている。(例 メタボリックシンドローム)
- ・生まれてから今まで「健康」できた人が、食生活を見直すことはない。健康でなくなった時、初めて食生活を見直す。
- ・ある幼稚園では、畑を利用して自分たちで野菜を作り、おやつ etc を手作りしている。→残量0を  
実践中
- ・冷凍食品をひと手間加えて、上手に利用しよう。
- ・お弁当の副菜の作り方  
味付けを同じにしない  
油でコーティングしたものばかりにしない  
前日の夕食準備の時に下ごしらえをするとよい etc

### <分散会②>

- ・給食の担当、家庭科、夫が偏食のため、子どもたちには工夫している。
- ・小さい時に色々考えて食べさせていたのに、今はファーストフードになっている。
- ・油っこいもの、刺激の強いもの、辛いものを食べたがる→お魚、野菜中心に考えている。
- ・朝食の大切さを家庭（子ども）に話をしている
- ・朝食を抜いている子どもに自分で食べるように指導していきたい。
- ・ジュース類をよく飲むので、飲料系のことが気になる。
  - スポーツドリンクも糖類が入っているので、飲みすぎに注意。
  - 100%のジュースでも果糖が含まれている
- ・コンビニのおにぎりは添加物が多いため、味覚障害になると言われている
  - コンビニ2個、手作り2個にしている。
- ・人が食べている時に我慢ばかりさせていると、親の目のない所でこっそりと食べている（社会的にも問題になり、マイナスになる）
  - 我慢ばかりさせていると、大きくなった時に、「食べさせてもらえなかった！」という思いがずっと残っているような気がする。
- ・朝食を食べない子は、夜寝るのが遅い傾向がある。
- ・牛乳は飲まない方がよい！牛乳は毒だ！ヨーグルトもダメ！という本が出ているようだ
  - 給食に牛乳があるのは……?? ※文科省は言っていない。教育委員会はどうなのか？

### <分散会③>

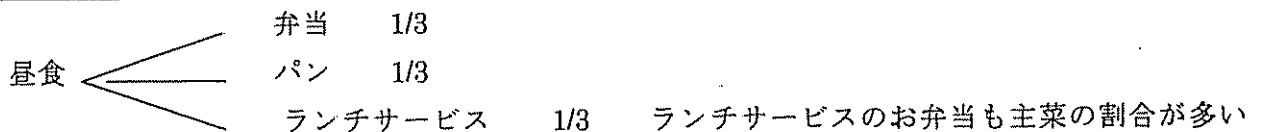
- ・朝食を摂ってこない子がいる
  - 作ってもらえない
  - 朝忙しく、朝食のメニューまで余裕がない
  - 寝る時間が遅いため、朝食の時間がない
  - 子どもの食が細い
  - 家族関係が複雑
  - 親の考え方の変化
  - 朝食は一日のエネルギーの元になるので、朝食の大切さを指導する必要がある。  
(子どもだけでなく親にも)
- ・
  - 「ファーストフード…中高生になると多い。(夕食にとる子もいる)
  - 「コンビニ…夕食の代わりに、お菓子 etc を食べる。
    - カロリー・塩分を取りすぎ=生活習慣病
- ・栄養教諭…1人で5校ぐらいを担当（三重県11人）
- ・食生活の教材…活用されていない
- ・地域の人が協力…食育のボランティアがいる
- ・「食育」年間計画…鈴鹿市は進んでいない

## <分散会④>

### 給食

- ・6年生はおかずよりご飯が残る
- ・学年によっても違いはあるが、「ダイエット」を気にして残す子がいる
- ・煮物類の苦手な子が多い
- ・最初に減らす（ほしい子に増やす）→教師の声かけによって違う
- ・キレる子  
→空腹時になると血糖値が下がるため、落ち着きがなく、イライラする子が増えるような気がする。

### 中学生のお昼



### 学校での食育の取り組み

- ・家庭科の授業やお昼の放送で、「食べることの大切さ」を教える

### サプリメント

栄養補助食品 → 50代後半の人がサプリメントを取る必要はあるが、子どもにサプリメントを取らせるのはおかしい！！

- ・何をどれだけ食べればよいか・・・自分でコントロールできる子ども育てることが大切！
- ・食育の話を聞いて、改めて考え直す必要があると思った。
- ・食べることの大切さを教えることは大事だと思う。

しかし、親ができていないことを子どもに強要することは不可能ではないのだろうか？

一人ひとりの親が『食べる』ということをもう一度考え直さなければ、子どもたちに伝えることはできないと思う。

## 3 アンケートから

(保護者・・・P 教職員・・・T その他・・・他)

- ・聞きたいこととテーマがずれて話せなかった。(かまない、飲み込む、早食いの子をどうすればいいのか、肥満にしない食事にはどんなものがあるかなど) (P)
- ・改めて食生活を見直す1つの「きっかけ」になれば・・・と思っています。(P)
- ・食育基本法が施行されてから、食育という言葉がひとり歩きしているように感じます。食育はイベント的なものでも力んでするものでもないと思います。大人は忙しさに流されず、生活や食事を大切に子どもの健康を守る責任があると思います。堀田先生からのキーワードを元に生活を見直したいと思います。分科会 話が分散して深められなかったのが残念です。テーマが広いので・・・。(P)
- ・いろいろな方の意見を聞くことができて参考になりました。今後、自分自身を含めて家族にもきちんとした食事をとってもらおうように気を付けたいと思います。(P)

- ・いろいろな意見が聞けてためになりました。(P)
- ・日々の生活でどんな活動にも密接する食、改めて大切さがわかりました。食を様々な面から考える機会となりました。時間との勝負の調理、裏レシピ、アイデア調理法などを聞き、とても参考になりました。(P)
- ・食育という言葉をよく耳にするようになってきているので、どれぐらいの方が興味を持たれているのかと思って参加させていただきました。食育とはどういう事なのかよくわからないという方も数人いるのが現状なのでもっと具体的な事が分かりやすく知っていただけるように情報の場があるといいなと思いました。(P)
- ・いろいろな意見が聞けてとても勉強になりました。食育は自分で意識していくのが大切なのかなと思いました。(P)
- ・食生活について参考になりました。(T)
- ・分散会はおもしろかった。もっと分散会に時間をとってよかったですんじゃないでしょうか。沢山の意見がでましたが、今後これらの意見をどう生かすのかが問題ですね。出しっぱなしではいけません。現場にどう流れてくるのか楽しみです。(T)
- ・小学校、中学校の教諭、養護教諭、保護者といろんな立場の人と食についての話ができてよかった。教諭でもあり、保護者でもある人の意見は学校と家庭の両方の様子がわかるので、リアルな話が聞けた。(T)
- ・分散会7～8名でも多様な意見が出るものだなあと感じました。日頃考えられない事を考える良い機会になった。(T)
- ・食育の大切さがわかった。学校でも食育について取り組んでいく必要がある。(T)
- ・食育の大切さ子どもへの自己管理能力を育てるなど大変勉強になりました。講師さんのお話が分かりやすかったです。(T)
- ・保護者の方からも日常の子どもの姿を出していただき非常に参考になった。「自分の健康は自分で守り、つくる」ことの大切さを改めて感じた。子どもたちにもそれを理解してもらえるように育てていきたい。分散会も活発に意見が出されて良かったです。(T)
- ・保護者の方と先生方と意見交換できたのは良かったと思います。それだけに、保護者の方の参加増をと思います。何かいい案があればいいのですが…。(T)
- ・他の学校の先生や保護者の方とざっくばらんに意見交換ができて良かったです。係の集合時間、もっと遅くても良かったのではないのでしょうか。(T)
- ・様々な意見が聞けて良かった。朝食欠食、食生活、親を変えていくの大変。子ども自身が自分の体のためにできるように変えていく。家庭科での調理実習は大切と自分の子どもを見ていて思います。(T)
- ・保護者の方の参加が少なくて残念です。参加された方は意識が高く問題が無いように思います。が…。(T)
- ・先生のお話も参考になり、いろいろな保護者、先生方の取り組みも聞かせてもらって良かったです。(T)
- ・講師の先生のお話が法律的なことが多く、もっと具体的な食生活の実情やどうしたら改善が出来るのか等のお話が伺いたかったです。しかし、お話はあくまでもきっかけで『語る会』の中では参加者自身の実践や普段食生活で気を付けている事が出し合えてとても充実した分散会になりました。(T)
- ・もっと先生のお話を伺う時間があれば良かったと思います。少ししか講演いただけなかったのが残念でした。(T)

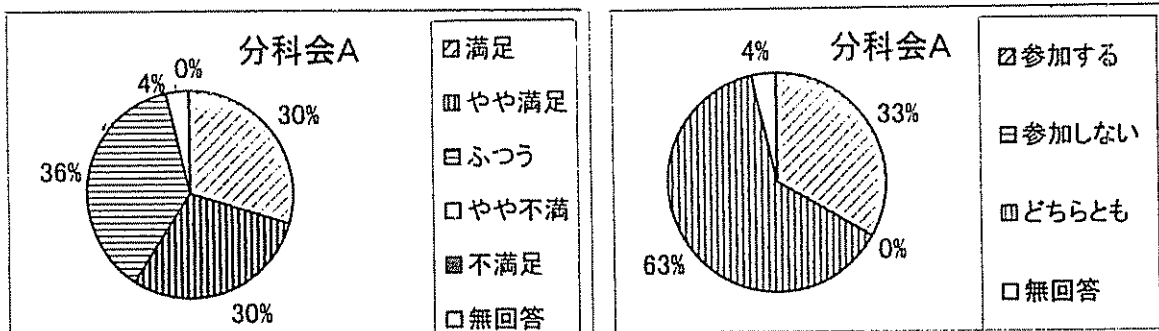
- ・同じグループの方から様々な意見が出されて、沢山の事を学ぶことができました。今まで自分が意識してこなかったテーマだったので、とても考えさせられた。司会の先生が うまくまとめながら進めていただいたので、話しやすかった。ありがとうございました。(T)
- ・司会の先生が上手に進めてくださり、それぞれ意見を述べる機会雰囲気をつくってくださったので良かったです。いろいろ食について考えるいい機会になりました。食の事は、奥深く幅広く様々なことを考えていかなければならないと思いました。(T)

A分科会 参加された満足度

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満足	無回答	計
教職員	4	6	9	0	0	0	19
保護者	4	2	1	1	0	0	8
一般	0	0	0	0	0	0	0
計	8	8	10	1	0	0	27

次回参加するか

	参加する	参加しない	どちらとも	無回答	計
教職員	6	0	13	0	19
保護者	3	0	4	1	8
一般	0	0	0	0	0
計	9	0	17	1	27



## B分科会 テーマ

「今、親にできること 大切なこと — 幼児期・学童期の子育て —」

助言者 松本恵美子先生

### 1 助言者の話の要旨

◎ 英語が主専攻の私は、年に2～3回は渡航するが、その折に接する外国の親と日本の親の違う点に気づいた。

外国の子どもと日本の子どもへのアンケートで、「親に反発反抗を感じるか？」という質問に対し、「感じる」と答えた外国の子どもたちが16.1%であるのに対し、日本の子どもたちの実に84%が「感じる」と答えているのである。この差はいったいどこから出てきているのだろうか？

#### (1) 99:1

アメリカのヤンキースタジアムは席と席の間が狭く、通路を通ろうとするとすわっている人が立ちながら Excuse me と当たり前のようにごめんなさいと言う。

通る人はともかく、どうしてすわっている人がごめんなさいというのか？アメリカの友人にたずねると、「99%通る人があやまるのは当然だが、残り1%もし自分がここに座っていなければあなたは楽々通れたのに」という意味でごめんなさいというのだ」とのこと。

(子育ての場面での例)

・朝食を食べてパンくずをこぼす⇒「パンくずを拾いなさい」⇒子どもが拾った後

日本の場合→子どもに対して文句を言う

アメリカの場合→「拾ってくれてありがとう！」とお礼を言う → なぜか？

「もしも子どもがパンくずを拾わなければ、私は腹が立ちいやな気分になった。あなたがすぐに拾ってくれたから私は穏やかな気分になれる。だから、拾ってくれたことに感謝する」

・アメリカ人にとって一番仲良くしたい人は子どもであり、夫である。

仲良くなるキーワードの言葉を彼らに言わずして誰に言うのか？

自分がありがとうと言えば、子どもがそれを真似し学ぶ。感謝する言葉を身につけることで感謝の気持ちを持たせることが出来る。

#### (2) 誉め言葉が上手

アメリカ人は誉め言葉が短い→すごいね Great! でかした Good job!

日本人は誉め言葉が長すぎる。

<例>いつも片付けない子がきれいに片付けた

→ 良く片付けたなあ、いつも片付けやいな。

テストで成績が良かった

→ 点が上がって良かった、えらいなあ。やったら出来るんだから、今度はもっとがんばりな。

親の一方向的な思いこみ×

アドラーの心理学・・・追加の要求をされることで、子どもの意識・やる気・達成感は一気にダウンする⇒喜び、意欲がなくなる。無条件にほめることが大切。

#### (3) 流行と不易

・時の流れによって物の考え方はどんどん変わる⇒ 流行

受験・・・調査表の必要性 欲しいと思う人、いらぬと思う人

同じことの中でも考え方はいろいろ有る

考え方の多様化の中で、10年前の常識と今の常識にも差が生まれている

抱き癖をつけるな ⇔ 時間有るならスキンシップのため抱きなさい

常識が常識でない

英語 My name is Matsumoto Emiko.

流行に関しての Yes、No は自分が判断すれば良い

子育てについても同じ⇒個々の親の考えによって育て方を決定する

・時の流れに左右されず、絶対に考え方の変わらないこと ⇒ 不易

親も教師も子どもに伝える義務がある

**不易 4つのものさし**

- ・ 命は尊い
- ・ 法に反してはいけない
- ・ 人を差別してはいけない
- ・ 人に迷惑をかけてはいけない

## ◎ EQ について

EQ とは・・・「EQ」とは知能指数を表す IQ に代わって登場した概念。「EQ」では、知能に代わってその人の意志の力や感情の働き、周囲の人との調和を図る力などを中心に据える。

EQ を高めやすい時期は 3～6 歳 幼保～1 年生の時期である。

⇒周囲の環境等 親が楽しんで EQ を高められる時期

EQ の臨界期（支援して EQ を高めてやれるギリギリの線）・・・15 歳（中学卒業まで）

言葉の臨界期・・・12 歳

※ EQ の重要な要素に、自制と共感がある。

共感・・・相手を思いやること 自制・・・自分をぐっと我慢すること

この二つをどうやって高めていくか？

〈共感のEQを高める〉

- ・ あいさつ言葉 — 相手を思いやる言葉

おはよう！ありがとう！と親が言うことによって、子どもも言えるようになる

言えない子どもが多い・・・親も言っていない現状が有る

- ・ 誉める＝認める

認められて育てられた子は、他人を認められることが出来るようになる

〈自制のEQを高める〉

- ・ 不易

親にしっかり教えられた子は、しっかりと自分を自制することが出来る子になる

- ・ 叱らない親・教えない親

⇒子どもは見捨てられていると感じる

叱る時に叱ってくれなかったから、自分はこんな風になってしまった

子どもは悪い時には叱って欲しいと思っている

## 2 分散会の内容

- ・ とてもわかりやすいお話だった。自分の姿をふり返った。



- ・ あいさつは大切だと思った。
- ・ 9才以上になると指導が入りにくいのを実感している。
- ・ 共感と自制は本当に大切だと思った。
- ・ 子ども5人いるが仕事で子どもと接する機会が少ない。あいさつは、大切だと感じた。兄弟同士は、名前で呼びあっている。EQを大切にしたい。
- ・ 不易のことで昔の自分の子育てを思い出した。物のあふれる今の世の中、親の考え（人のものと自分のものの区別）が大切だと思う。
- ・ 子育てをふり返って
  - \*子育ては一番後になってしまった。家のこと、夫のことをまず一番に考えて、家のことを自分はきちんとしているんだということをもっと一番に考えていた。もっと子どもと一緒にいてやらなかったんだろうと後悔している。親にたよらない子どももさみしい。
- ・ 朝、6時30分から8時までずっとだいている。認めてほしいのは分かるけどわがままと甘える部分が難しい。悩んでいる。
- ・ 親がやるのがはずかしいくらいの子でもスキンシップは子どもはうれしい。本の読み聞かせは、6年生でもうれしい。叱るときは、ピントがずれてはだめ。子どもはするどいから。
- ・ 子育ての中でこんな言葉かけをしてよかったこと、失敗したこと。
  - \*夏休みの自由研究をしているときに、「お父さんが考えつかんようなこと、考えたんやなー。すごいなー。」子どもの目が変わった。「僕、できるような気がする」
  - \*声かけは、タイミングが大切。子どもから話してきたときは、顔を見て真剣に聞いてあげる。3人ともきちんと父親の所まで来て、おやすみを言いに来る。
  - \*9才をすぎると口答えがでてる。難しい。
  - \*言葉に出さないと子どもには、伝わらない。あまり話さない父親を冷たいという。
- ・ 子どもがすねる。そのときの対処のしかたは。
  - \*しばらくは、放っておく。あまり続けば叱る。
  - \*放っておくと、時間をおいて、こちらの様子を見に来る。その時の声かけが難しい。
- ・ ゲームをずっとしている。親としてコントロールの方法があれば。
  - \*時間を守ればOK。自分のみている範囲では守っている。
  - \*友人に相談。友人の子が外で遊ぼうと声をかけてくれるようになり、外で遊ぶ楽しさを覚え、ゲームをする時間が短くなりよかった。
- ・ お手伝いどうしていますか。
  - \*親が言ってもしないけど、学校からお手伝いの宿題が出るとする。それが今も継続化している。
  - \*料理など自分が作ったんやにー。とうれしそうに、自慢。充実感があるのだろう。
  - \*お手伝いは生活の知恵、家族への共感を高めるのに一番よい方法。ただし、定期的に。
- ・ 自分が子どもの時にほめられたか。人と比べられた気がする。
- ・ 原点だなと感じた。自制、共感についてもっと知りたい。
- ・ 自制の部分の指導が難しい。共感……あいさつ運動からはじめる。
- ・ 低学年……共感、自制を身につけにくくなっている。同じことを同じ言い方でいっているのに響かなくなってきた。
- ・ 親がなぜと思うことでも、意味がないと思うことでも、子どもにとっては発見、驚きの大切な時間。
- ・ 条件づけしてほめてしまう。一人の人間としてみて比べる必要がないことを感じた。
- ・ EQとIQ 聞いたことはあったが、深く知らなかった。
- ・ 腹が立ったら、10数えなさい。自己評価をあげてあげることが自信につながり大切。

### 3 アンケートから

(保護者…P 教職員…T その他…他)

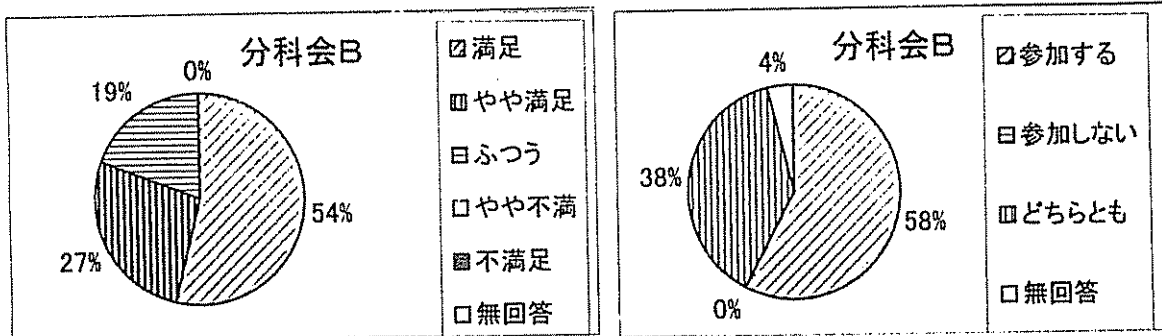
- ・ 助言者の先生にお話は、今までに聞いた子育ての講演とは、ひと味違った内容で新鮮な感じでした。(P)
- ・ はっとするような、親に対してのご指摘を受け、納得した次第です。(P)
- ・ 「ありがとう」褒めてあげるということをよく考えて子どもに伝えていき、共感・自制を高めていけるように心がけたいと思いました。(P)
- ・ 以前も聞いた話ですが、今回も良かった。子どもを見守る目が母として育った。(P)
- ・ 読み聞かせ、家の仕事…今から、実行しようと思います。いい話が聞けて、良かったです(P)
- ・ EQについて、言葉は知っていたが、分かりやすい説明をしていただけて良かったです。(P)
- ・ いろいろな意見を聞くことができました。自分が考えているより、もっと違う考えがたくさんあるとわかりました。(P)
- ・ 知らなかったこと等も知ることができて良かったです。他の参加者の方といろいろと意見交換もできて参考になりました。(P)
- ・ いろんな家庭の教育感がわかって良かった。(P)
- ・ 講師の先生の話がわかりやすくよかった。いろいろなアドバイスが的を射ていてよかった。(T)
- ・ 今からできることを忘れずにやりたいです。多くの発見がありました。続けていくことを課題したいと思います。(T)
- ・ 実践にむすびつけるように努力したいです。他の学校の先生や保護者の声を聞いてよかったと思います。(T)
- ・ 自分自身の普段のまわりの人とのコミュニケーションの大切さも改めて感じました。子育ても人間関係もすべてコミュニケーションが大切だと思います。(T)
- ・ 簡単に実行できることをわかりやすく松本先生に教えていただきました今日は、ありがとうございました。小さいうちの子育ての大切さがよくわかりました。EQを高められるように子どもたちの生活を考えたいと思います。(T)
- ・ EQの大切さがよく分かった。日々、教室で苦勞している部分で、自制が高まっていない子が多いのが明らかになった。家庭での親の対応によるというのが大きいと言うことだが、不易の部分でしっかりやっっていこうと思った。(T)
- ・ 子育ての悩みを相談してしまいました。先生のお話から、共感していけそうなこともたくさんあり、明日からの育児・仕事に生かしていきたいと思います。(T)
- ・ 共感と自制。自制の方が気持ちを育てるのが難しい時代だと感じています。(T)
- ・ 共感、自制は15才がギリギリ臨界期。まだ間に合う、中学生。講師の先生の「一日でも早く、明日より今日」を胸に、これからの指導につなげていきたいと思います。(T)
- ・ 何度も聞かせていただくことで、自分のものになるというか、気持ちがあらたにできるというか、とてもスッキリします。グループの話し合いでは、様々な年齢のお子様をお持ちの方が参加され、なつかしい気持ちになったり、子育ての先輩から学んだり、いい機会をいただきました。(T)

B分科会 参加された満足度

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満足	無回答	計
教職員	8	6	2	0	0	0	16
保護者 一般	6	1	3	0	0	0	10
計	14	7	5	0	0	0	26

次回参加するか

	参加する	参加しない	どちらとも	無回答	計
教職員	8	0	7	1	16
保護者 一般	7	0	3	0	10
計	15	0	10	1	26



## C分科会 テーマ 「思春期の子ども心とからだ」

助言者 臨床心理士 高崎 順子さん

### 1 助言者の話の要旨

「気になる子どもに寄り添って」

23日から3日間主人と2人で北陸旅行に行ってきました。主人とナビを頼りに楽しい旅行でした。進路を教えてくれるナビは旅行する時などとても助かるので「ナビ様」と私は呼んでいます。最近ではドライブマップや地図を見ることはなくなってきました。自閉症やADHDの子供たちは見通しが立たないとパニックになったりしてしまいますが、絵カードを使ったり計画など知らせるとスムーズに動けたりします。人生においても羅針盤があると人を理解したりする事ができると思います。見通しが立てば、どうして…何で…ということが理解できます。同じように、思春期の成長・プロセス・変化を理解することが大切です。

#### 思春期・青年期

- \* 思春期 ホルモンの変化・生物学的には第二性徴の発現（成長速度の加速現象の出現…身長体重の増加）を持って始まる。  
第一次性徴…胎児期・胎生期である
- \* 青年期 心理学的にいう時使う
  - a, 前青年期（約10～12歳、小学校高学年、前思春期～学童期から思春期への移行期）身体面では成長の加速が特長であり、概して女兒の成長加速は男児よりも1～2年早く始まる。精神面では同性同年輩の親密な関係（親友や仲間）を獲得する事が重要。それが得られない時、強い孤独感を感じる。
  - b, 青年期前期（約12～15歳、中学生年代）精神面では同性の友人と親密な関係をもつ。携帯電話、メールなどの通信手段は絆を強めるが、絶えず友達と繋がっていないと不安で、特徴の一つに目に見えない絆を信じるという本来の信頼が育ちにくい。また自分の言動、容姿や服装、美容に興味を持ち、他人からどのように見られているかという「人の目、評価」を意識しはじめる。14歳前後から自分の親を一人の人間として突き放して見るようになる。
  - c, 青年期中期（約15～18歳、高校生年代…昔は15歳で元服）同性同年輩の友人のもつ凝集力は弱まり、異性と親密になることに魅力的となる。「自分らしさ」「どのように生きるべきか」と自分に対する問いが始まる。
  - d, 青年期後期（約18～23, 24歳、大学生年代）、後青年期（約23, 24～30歳…フリーターや引きこもりなどピーターパンシンドローム、シンデレラエクスプレスと長くなってきている）成人社会への参入の心理社会的準備期間（モラトリアム…憂慮する機会）

### 思春期・青年期の子どもの特徴

- ・思春期は身長や体重をはじめとした身体の急激な発育変化と、性的成熟の著しい第二次性徴によって始まる。いずれも自分自身だけでなく他者からもはっきりと認識できる形態的变化を含んでいるため、その変化を受け入れることは必然的にこの時期の大きなテーマとなる。自分の身体に対して注意が集中するだけでなく周囲と比較して些細な違いに敏感になったり、自分の身体が他者からどう見られているかについても自ずと関心が増す。しかしこれらの身体変化は、それ自体が急激であること、これまでに経験した事のない新しい変化であること、次々に多様に発現すること、変化の度合いや時期には個人差が大きいことなどから、この時期特有の葛藤や不安定な心理、行動を招きやすいのである。
- ・現代において大人になるということは、個々の内面における作業となり、子どもと大人の境界は、ある意味制度的な保障をもたない、極めて曖昧なものとなってきた。こうした状況の中、青少年が心理的・社会的に大人になることに困難を伴うことは少なくない。身体が急激に大人に近づき、時に周囲の大人達を凌駕しても、心はあまりにとらえどころなく曖昧なままに取り残されているのである。
- ・引きこもりの子がインターネット依存になりメールにはまる。相手の事を「本体さん」と呼ぶ。イメージ・架空で付き合っている。昼夜逆転の生活になる。  
睡眠障害・早朝覚醒・中途覚醒・日内変動・・・現実でない世界で生きている。睡眠障害からうつ・精神疾患に

→身体と心を一致させるのが思春期・青年期の課題

### 最近の子供たちの姿

- 1、 仲間との付き合い方がわからない  
→傷つきたくない、傷つくのが怖い、コミュニケーションの上手・下手  
自閉症・広範性発達障害→仲間作りができない
- 2、 我慢ができずにキレやすい→興味の幅が狭い、世界が狭い
- 3、 自己評価が低い→～ができないとすぐ思う、行動範囲が狭い
- 4、 学業の不振・成績のつまずき  
→心の傷になる。スポーツ・絵などいろんなものがあるが・・・。  
偏差値社会で将来に希望がもてない
- 5、 表現力が乏しい  
→カワイイ・キレイと形容詞一言で終わる。単発な感情表現。  
「～だから～だ」がない

◎ 心理的離乳と第二次反抗期をどう受け入れていくか？

ブロス「第二の分離固体化」→第一は出産時のへその緒をきった時  
「親離れ」→精神的に離れる

### 芸術療法をやってみよう

芸術療法……悩みを言えないので当り障りのない会話から「落書き」「折り紙」「塗り絵」  
などをしながら引き出す

もともと心理療法は、無意識の世界を扱うことが多い。無意識は意識化されたり、表現されたりしにくい心的内容から成り立っている。これを何とかして表現にもたらしようにすることが、芸術療法の目標になる。

### <コラージュ法>

\*コラージュ……フランス語で「糊で貼る」

精神疾患の人に使う場合が多い

「～でなければならない！」を解放し開放する

\*用意するもの

画用紙（四つ切、または八つ切り）、はさみ、のり、

雑誌、広告の紙、カタログなど好きなものや関心のあるもので切り取っても良いもの

\*実施の方法

一人でもいいし、グループで行ってもよい

テーマは決めても決めなくてもよい

### まとめのお話

☆「橋をかける」・・・誰かにつなげる・何かにつなげる・・・大人の役割である

生命をつなぐ事である

☆いつも広い心でおおらかに見ていくという気持ちがたいせつである

## 2 分散会の内容、話し合い

(コラージュを30分ほど行い、その後自己紹介やコラージュの感想、日ごろ、子育てや子どもたちについて思っていることを出し合った。)

- ・ 自分を出せずにがんばっている子どもや、自分を演出している子ども、人との付き合いに気を使っている子どもたちがいる。
- ・ 人に気を使いすぎて学校では、一人であるらしい。先生にも相談しているが、どうしていけばよいか。(これに対して、他の参加者から、いろいろな経験など、出された)
- ・ コラージュを一度親子でしてみたい。

- ・ 太陽を黄色に塗ったことが問題になり教師と話し合った。個性は違っていいのではないか。
- ・ 子どもたちについて、他の子を気にすることが多いので気になっている。
- ・ 助言者のお話について、もう少し具体的な話が聞きたかった。
- ・ 子どもたちのメール・ケータイ依存が問題。折り紙や切り絵の材料が保健室に準備してある。
- ・ 高2の女の子を見ていてケータイ依存だと思う。思春期の関わり方をもっと具体的に話し合いたい。
- ・ コラージュは、やってみると夢中になって楽しいなと思う。
- ・ ある子にアジサイだったかの教室掲示をしてもらったことがある。その子は一生懸命やっていて、まわりの子のことも気にならない様子だった。「何か手伝って」と個人的に頼まれるとぼくを指名してくれたと張り切ってくれる。いいタイミングで頼むことはよかったと思う。
- ・ しつけにこだわりはありますか。
  - \* 子どもが悪いことをしたときは、夫婦で関わるようにしている。
  - \* 夫婦で協力していく。ふたりともが子どもの話を聞いている。
  - \* 20才までは育てると子どもたちに話している。
  - \* 思春期の親子のかみ合わせは難しい。
- ・ 自分の子どもが思春期に入ってきたので、いろいろ勉強をさせてもらった。これから生かしていきたい。
- ・ 係りとして来たが、コラージュは楽しかった。子どもとやってみたい。
- ・ 子どもが思春期前期で、自分を見つめているのを親として今見守っている。
- ・ 中2の担任で、いざこざしているので、役に立つことがあればと思い参加した。
- ・ 子どもとコラージュをしたとき、ファッション誌の、顔から上を切り取って貼っていた。教室に入れなくていいときだったので。
- ・ まだ自分の子どもは思春期ではないが、参考になった。コラージュは楽しかった。
- ・ 自分の意見を言える生徒が少ないと思うので、作業を通して意見を出させたほうがいいのでは。
- ・ 学校でのことを家でも言わなくなってきた。
- ・ 成長の過程で他人に（親に）言えないことが出てくる。
- ・ 中2が、中学校3年間の中ですごく変化が見える年頃かな。友達とも関係が難しい。
- ・ 女の子だと、メールとかで、仲間はずれにすぐにされる。
- ・ しつけの面などで、親がすべきことを学校に求めることがある。

### 3 アンケートから (保護者…P 教職員…T その他…他)

- ・ 思春期の実情はわかったが、これからどうすればよいかを聞かせていただけたらととても良かった。(P)
- ・ もう少し、思春期の子どもにどうしたらいいか、教えてほしかったです。思春期の子どもは難しいですね。(P)
- ・ 思春期、青年期、いろいろと精神的に不安定な時期ではあるし、肉体的にも伸びる時期で、問題も多く発生すると知り、今後対応を考えたい。コラージュ法は楽しくでき、心理状態を読めるということから、児童生徒にもぜひ行なってあげてほしいと感じた。(P)
- ・ コラージュがとても楽しかったです。いま気になっている子どもの発達のこと、体系だてて話が聞けて気分が楽になったように思う。(P)
- ・ 高崎先生の講演内容が短時間の中、とてもわかり易く、理論的であり参考になりました。(T)
- ・ 先生の経験を生かした事例や対処法をお聞かせいただけたらと、よりわかりやすかったと思います。(T)
- ・ 青年期の成長の仕方を具体的に説明していただき、よく理解できた。後半のグループでの意見交換の時間をもう少しとっていただいたほうがよかったのでは。コラージュ法も最初は戸惑ったが、だんだん熱が入り、一生懸命集中している自分に驚いた。(T)
- ・ 見通しを持って子どもの成長を見守ることの大切さから、成長過程を知ることができました。グループが、保護者1人、教職員8人だったので、同数のグループもあるようで、残念だった。(T)
- ・ コラージュをやって、まさに自分自身の現在の状況を表していると驚きました。中学生に、コラージュと一緒にやろうと、どうやって誘いにのせていこうか、今日やったことを生かしていくことを考えています。(T)
- ・ 違う学校の先生や保護者の方々との交流が良かったです。親としての思い、教師としての接し方とらえかた…。子どもたちにどう返していくのか、難しいなどは思いますが、精神的な面での支えになっていければと思います。(T)
- ・ コラージュをして、とっても楽しかったです。グループで作ったのもわきあいあいと楽しくできました。思春期について何も知らなかったが、先生の話聞いて、なんとなくですがわかった気がします。教師として、思春期の子どもたちと具体的にどう関わっていけばいいのか考えていかなくてはと思いました。(T)
- ・ 思春期の子どもとの接し方について、もう少し、つっこんだ話を聞かせていただきたかった。コラージュ法は勉強になった。(T)
- ・ 思春期の子どもの特徴についてはよくわかった。これを知って対応していくことが望まれるけれど、実際のところ、どういう対応をしていくとよいのか、具体的な話が聞けるとよかった。コラージュ法は楽しかった。心を開放し、2人でするときも、互いに協力



しながらやることで、学べることはあると思うけど、実際学校で使うには、分析の仕方がまだ良くわからないので、使う自信がない。コラージュをして、楽しかったのが良かったが、話し合いの時間はほとんどなく、論点も定まらず、意義あるものとはならなかった。(T)

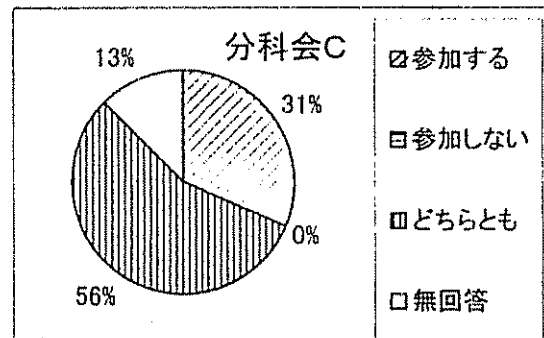
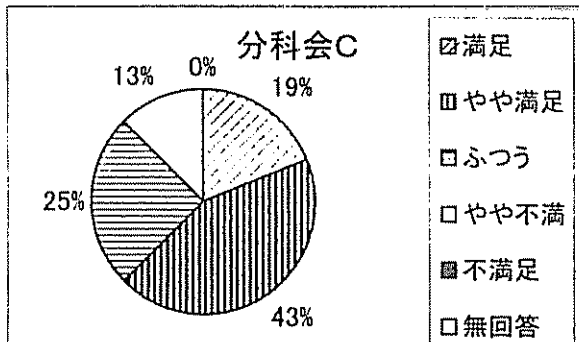
- ・ コラージュの理論がわかりました。(今まで?とっていたので) (T)
- ・ 思春期の子どもとからだについてのお話は、正にその通りの子育てだったと振り返ることができ、よくわかりました。ただ、むずかしい年齢の子どもに、どう関わったらよいのか、もっと具体的な話し合いができればよかったと思いました。また、保護者の方の参加が少ないと思いました。(T)
- ・ 高崎先生は、ひとつの事例からとても深い事実を教えていただける方なので、どなたかの、あるいは過去のコラージュから例を出して教えていただきたいかったです。(T)
- ・ コラージュ法に興味を持ちました。(T)
- ・ 子どものことで、いろんな方からアドバイスをいただいて、うれしかったです。親として、自信が全くなくなっていたので、ありがたく思いました。「芸術療法」も、子どもとやってみたいと思います。(T)
- ・ お話を聞かせていただき、ありがとうございます。私は小4の子どもがいるので、これから思春期に向かっていくため、何か参考になればと思い参加しました。短い時間の中で難しいとは思いますが、具体的な話が増えてくると、もっとわかりやすかったように思います。先生方や親のほうの意見に、今の世の中の心配、その他たくさんあると思いました。あまり未来が明るく感じられない話もありました。(T)
- ・ コラージュが楽しかったです。子どもとのコミュニケーションをとる方法として、家族でもやってみたいです。思春期について理解を深められた。(T)
- ・ 思春期の子どもと親として、家庭内のコミュニケーションの大切さを感じました。広い心、おおらかな心で子どもと向き合いたいと思います。(T)
- ・ もっといろいろ話をお聞きしたかったと残念です。話し合いの時間も、もっとほしかったです。(T)
- ・ 先生のお話を聞かせていただき、個人差はあるとはいえ、心と体の発達も順調だったんだなと少し安心しました。コラージュ法は、一度子どもたちとやってみようと思いました。(心理療法に関心があるので、またどこかで、このような話があれば、聞かせていただきたいと思います。) (T)
- ・ 6年生の女の子は、このごろ友達と過ごす時間が一番好きになってきました。休日も家族から少し離れてきたようです。だんだん成長していきっていると思います。(T)
- ・ コラージュが多く、話が少なかった。(T)

C分科会 参加された満足度

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満足	無回答	計
教職員	2	8	5	1	0	0	16
保護者	4	6	3	3	0	0	16
一般	0	0	0	0	0	0	0
計	6	14	8	4	0	0	32

次回参加するか

	参加する	参加しない	どちらとも	無回答	計
教職員	3	0	10	3	16
保護者	7	0	8	1	16
一般	0	0	0	0	0
計	10	0	18	4	32



## D分科会 テーマ 「ネット社会と子どもたち」

e-ネットキャラバン 林 雅樹さん

### 1 助言者の話の要旨

〈総務省 東海総合通信局 服部さんより e-ネットキャラバンの説明〉

現在、赤ちゃんや老人を除き、国民一人に1台の割合でパソコンを持っている。

三重県内でも、インターネットを約2400万世帯が利用している。

ハイテク犯罪（ワンクリック詐欺・フィッシング詐欺・・・他）から子どもたちをどう守っていくのか、インターネットや携帯電話の正しい使い方を指導していくのが、e-ネットキャラバンである。

〈e-ネットキャラバン 林さんの話〉

まず始めに、3つのお願いを忘れないで下さい。

- ◎ インターネット技術やパソコン、携帯電話は人と人とのコミュニケーションを豊かにし、日常の生活や勉強、仕事に役立つ、便利で楽しい21世紀の文明の利器（道具）である。
- ◎ インターネットや携帯電話等を介して起きている問題の多くは、現在の日本が抱えている社会問題・家庭問題等に根ざしており、子どもを見守り、育む大人の責任である。
- ◎ 児童・生徒が使うインターネットやパソコン・携帯電話は、おもちゃのように買い与えたものではなく、親や学校が子どもに一時貸しているものである。従って、家庭や地域社会で守るべきルールやマナーがあるのは当然である。

今日、青少年センターに来る為に、場所も時刻表もLet's talkの事も、全てネットで調べる事が出来た。インターネットはとても便利。しかし、1%の危険がある。

☆ インターネットも車社会と似ていて、交通ルールと同様にマナーとルールを守らなければ、加害者にも被害者にもなってしまう。

☆ 子どもを狙うネットの危険な落とし穴

- ・ 親が知らないうちに、見知らぬ人と悪い仲間になってしまう。
- ・ 文字や映像で、人を傷つけたり、不幸にしてしまう。
- ・ 人を巧みにだます道具になる。

☆ サイバー犯罪について

相談件数の1位は、詐欺・悪徳商法で50%、2位はネットオークションの20%

検挙件数の1位は、詐欺で50%を占める。

児童・青少年に関する検挙数は全体の20%であり、無駄な売買をしなければ70%は安全である。

★ネット社会の7つの常識について

人と人との実社会では、全て当たり前。なのにネット社会では常識が守れていない。

○ 常識その1 「自己責任」

- ・ 「判断力」「自制力」「責任力」が、インターネット利用上の3つの能力。ほとんどの子どもは、この3つの力を持っている。むしろ保護者の方が心配。
  - ・ 迷惑メールには、返信も抗議のメールもしない事。放っておくのが良い。
  - ・ 子どもだけで、ネットショッピングをさせない。
- 以前のトラブルは高額商品がほとんどだったが、最近は少額商品でのトラブルが起こる。

○ 常識その2 「思いやりと謙虚さ」

- ・ ホームページやチャット、ブログにも注意しなければいけない。チェーンメールは無視する。誹謗・中傷がひどいと、名誉棄損・侮辱罪等の罪に問われる。

○ 常識その3 「個人情報保護」

- ・ 個人情報が流出すると、迷惑メール・架空請求・カード詐欺等のトラブルになるおそれがあるので、必要以上に個人情報は出さない。
- ・ 掲示板に個人情報を載せるのは、犯罪になる。(個人情報保護法)

○ 常識その4 「危険なサイト」

- ・ 出会い系サイトに関係した事件の検挙数の83.7%が18歳未満で、その内99.2%を女子が占めている。
- ・ 子どもが出会い系サイトを利用しているが、親は知らない。という、恐ろしい現実。
- ・ 保護者が子どもにインターネットを自由に使わせているのが、いけないのではないか。
- ・ 学校のパソコンは、子どもたちを守るためにフィルタリングソフトを使用している。これによってアダルトサイト・出会い系サイトを妨げることが出来る。
- ・ 携帯電話でも、フィルタリング機能がある。各メーカー無料で設定出来るようなので、子どもの携帯には必要。

○ 常識その5 「著作権・肖像権」

著作権の例外規定がある。興味のある方は、『追手門学院 総合情報教育センター』のホームページを見て下さい。

○ 常識その6 「コンピュータウイルス」

パソコンの事を分からない人ほど、ウイルスソフトは入れておく必要がある。

○ 常識その7 「ID・パスワード管理」

IDやパスワードは、家の鍵やクレジットカードと同じであるから、他人に貸したり教えてはいけない。

★携帯電話・インターネットについて

- ・ 携帯についての親子間の認識が、小学生ではほとんど同じだが、中高生になるとズレが生じている。
- ・ パソコンでも携帯でも、我が家のルールを話し合う事が大切。
- ・ インターネットの事は、保護者や先生よりも子どもたちが一番よく知っている。子どもたちと話し合う機会を持って、安心インターネットライフを！
- ・ 車社会のルールやマナーを作ってきたのと同様に、ネット社会の秩序や行動規範を皆さんと一緒に作っていききたい。

最後に、最後まで忘れないでとお願いした、次の三つのことを、もう一度。

- ◎ インターネット技術やパソコン、携帯電話は人と人とのコミュニケーションを豊かにし、日常の生活や勉強、仕事に役立つ、便利で楽しい21世紀の文明の利器(道具)である。
- ◎ インターネットや携帯電話等を介して起きている問題の多くは、現在の日本が抱えている社会問題・家庭問題等に根ざしており、子どもを見守り、育む大人の責任である。
- ◎ 児童・生徒が使うインターネットやパソコン・携帯電話は、オモチャのように買い与えたものではなく、親や学校が子どもに一時貸しているものである。従って、家庭や地域社会で守るべきルールやマナーがあるのは当然である。

テキストやガイドブックについてのホームページが、いろいろあります。活用してください。

Q 子どもが作ったブログのページを消す事はできないのでしょうか？アドレスやPWは分からない。

A しばらく書き込みしていなければ、勝手に消滅するかもしれないが、契約しているプロバイダーに問い合わせてみたら、消せるのではないかな。

## 2 分散会での話し合い

- ・メールのトラブルを、親が知らない事が多い。
- ・PCや携帯は、家族で共有している。みんなの携帯＝オープン携帯。
- ・大学生になって、初めて個人持ちにしている。
- ・親が管理できないという心配がある。
- ・子どもたちの間で、メールを使ってのトラブルが多くなっている。
- ・イジメに関するブログ・メールについて、生徒を指導する立場の者がきちんとした研修を受ける必要がある。
- ・1%の危険を、みんなに伝えていく事が必要。

Q (保護者)「学校への携帯電話の所持を禁止して欲しい」

A 基本的には市内の小・中学校では禁止している。

しかし、GPS付携帯電話を持たせている保護者から「うちの子に何かあったら、どうするのか!」と言われると、全面禁止には出来ない。

Q (保護者)「学校では子どもたちに、どのように指導をしているのか」

A PCの授業の始めに、携帯もいっしょという事で指導している。

「ドラえもののネチケット」が子ども向けで良いので、これを見せて、マナーを徹底させるようにしている学校もある。

## 3 アンケートから (保護者…P 教職員…T その他…他)

- ・もっと難しい話かと思いましたが、わかりやすく楽しく聞くことができました。家に帰ってルールを決め直し、楽しく安全なネットをしたいと思います。(P)
- ・現状がよくわかりました。家庭でも使い方をよく話し合わなくてはならないと強く思いました。(P)
- ・インターネットの危険を改めて感じ、親がまず責任をもって使わせるということが大切であると思いました。(P)
- ・携帯もパソコンも、親子でのルールが必要ということが改めて大事だとわかりました。(P)
- ・フィルタリングソフトの必要性を感じた。家庭でのルールも必要。(P)
- ・ためになりました。(P)
- ・大人側の責任、子どもにも情報機器を与えている側の責任を強く感じました。(T)
- ・インターネットを使うときのマナーは、きちんと教えていく大切さを学びました学校だけでなく、各家庭の意識も高めていく必要性を感じました。このような講習会に保護者がもっと意識を持って参加してもらいたいと思いました。(T)
- ・知らないことが多い分野で、新鮮な気持ちで伺うことができました。講師さんのおっしゃる通り、子どもの方が詳しい世界なので、自分が苦手だからいやだといっておらず、学ばなければと思いました。(T)

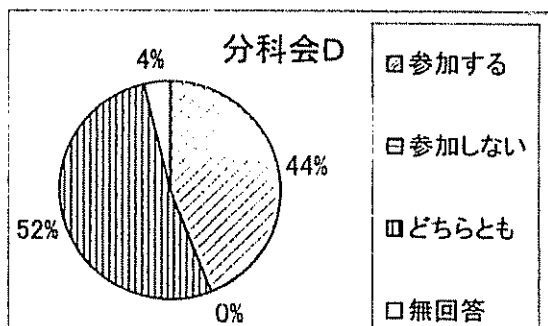
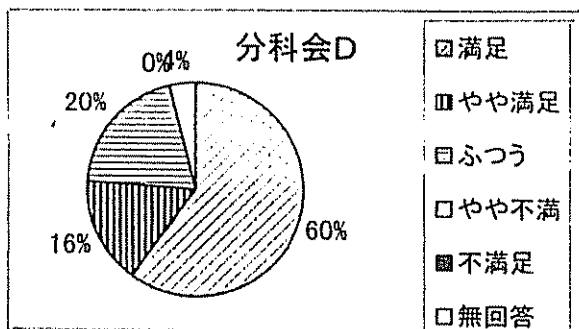
- ・ 小中学生にも学んでほしい内容だった。日頃の子どもたちの会話には、心配なことがいくつもあります。何をするにもふだんの社会生活と同じような心遣いが必要ということですね。本日の講師の方は、教育問題にも関心があるということで、話の内容が単なるインターネットに関するものでなくてよかったです。(T)
- ・ ネット社会について現状がよくわかりました。子ども達にも正しく安全に使えるように指導していかなければと思いました。また、保護者の方々にも聞いて頂きたい内容でした。(T)
- ・ インターネットで実際に困っている生の声を聞き、とても参考になりました。インターネットの便利さとこわさを再確認しました。ありがとうございました。(T)
- ・ 改めてわが家でのインターネットのルールを確認しないとダメだなと思いました。家族での会話も大切にしながら。今日のテーマは目新しく新鮮でした。(T)
- ・ 管理するのは親さんの責任をいうことをしっかり考えて、PとTが研修していかなければならないと感じた。家庭でのルールを決めるということとか、フィルタリングなどのことについて学び合うことが大切だと思う。(T)
- ・ ネット社会の中でわからないまま利用してきましたが、利用する姿勢・考え方・対策等、具体的にお話しただけ、大変参考になりました。特に大人が子どもに貸し与えている道具だということが印象に残りました。小学校からパソコン利用の学習を始めているので、利用にあたっての注意などを家庭にも連絡して協力しあっていくことが必要だと思いました。もうすでにされているのでしょうか。(T)
- ・ 各ご家庭でいろいろ工夫されているんだなと思いました。しかし、ネットに明るくない世代が親世代の今、学ぶことは多いと思います。直接子ども同士の関わりでさえまだまだ未熟で学んでいる子どもたち。ましてメールやウェブを介してのコミュニケーションが難しいのは当然かなど。やはり小学生には不要のツールであると考えますが、持っている子が多い以上、ルールを伝える方法も必要です。(T)
- ・ わかりやすく有意義でした。子どもたちに伝えていきたいと思います。(T)
- ・ マナーを教えることの大切さをつくづく実感です。(T)
- ・ 勉強のために参加しましたが、このような活動や勉強会があるのを知り、いろんな意味で勉強になりました。(他)
- ・ 最近話題になっているものの中で、SNSやファイル交換についての説明がほしかったかなと思いました。(他)
- ・ 携帯WEBサイトについて、フィルタリングの説明が不十分に思える。保護者としてどのように管理するのかといった方法も説明するべきではないだろうか。(他)

D分科会 参加された満足度

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満足	無回答	計
教職員	10	1	1	0	0	0	12
保護者	4	1	2	0	0	0	7
一般	1	2	2	0	0	1	6
計	15	4	5	0	0	1	25

次回参加するか

	参加する	参加しない	どちらとも	無回答	計
教職員	5	0	6	1	12
保護者	5	0	2	0	7
一般	1	0	5	0	6
計	11	0	13	1	25



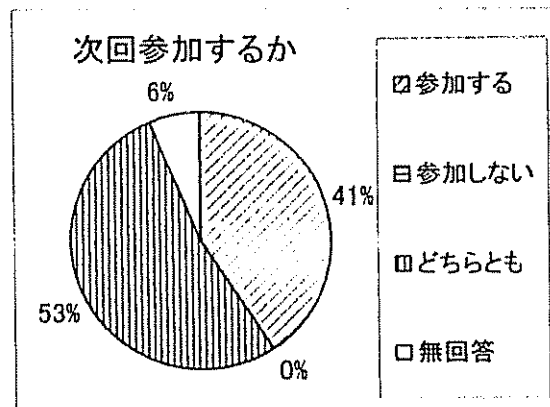
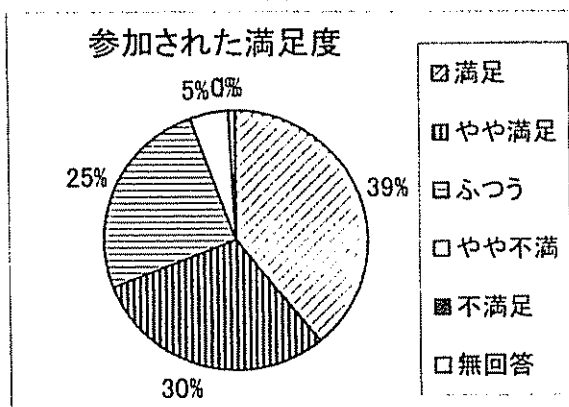
[全体集計]

参加された満足度

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満足	無回答	計
A分科会	8	8	10	1	0	0	27
B分科会	14	7	5	0	0	0	26
C分科会	6	14	8	4	0	0	32
D分科会	15	4	5	0	0	1	25
計	43	33	28	5	0	1	110

次回参加するか

	参加する	参加しない	どちらとも	無回答	計
A分科会	9	0	17	1	27
B分科会	15	0	10	1	26
C分科会	10	0	18	4	32
D分科会	11	0	13	1	25
計	45	0	58	7	110



Let's talk すずかのこども

e-ネット安心講座

ネット社会と子どもたち

2006年11月26日

e-ネットキャラバン 講師：林 雅樹

目次:

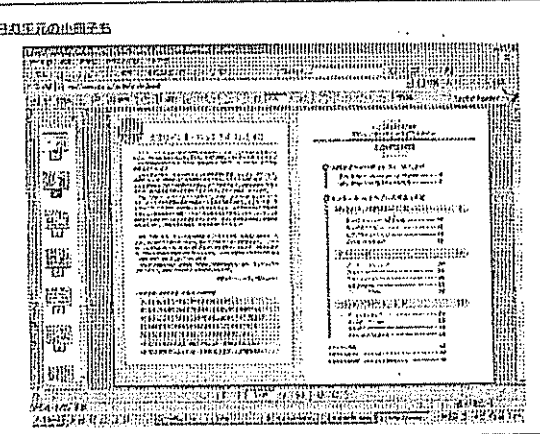
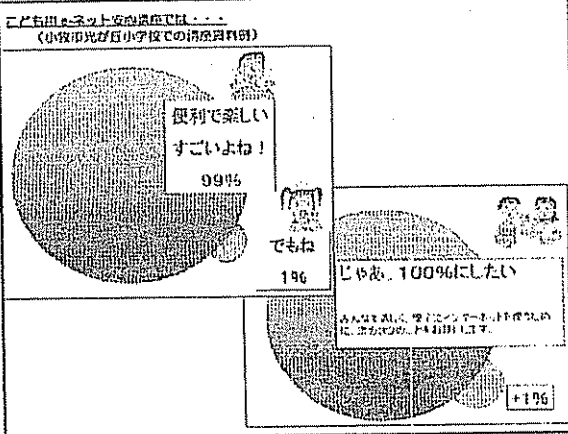
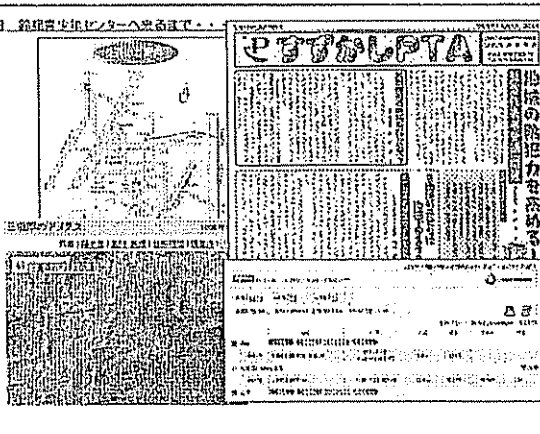
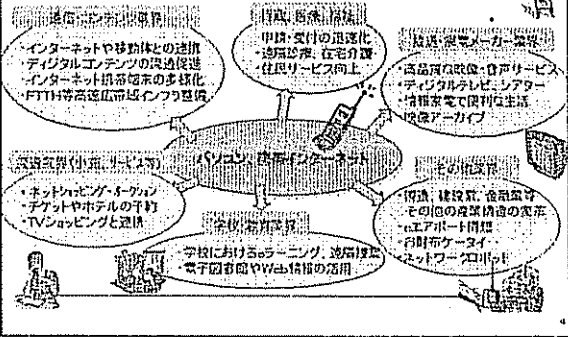
- 1 インターネットで広がる世界
  - ① 出会い系サイトに関係した事件
  - ② 家庭でのネット放任主義！
  - ③ フィルタリングの利用促進
- 2 ネット社会では何が起きているの？
  - ④ 危険！情報が狙われている
  - ⑤ ネット社会の危険な落とし穴
  - ⑥ サイバー犯罪発生状況
- 3 ネット社会の7つの常識
  - 3.1 ネット常識 1 (自己責任)
  - 3.2 ネット常識 2 (思いやりと謙遜さ)
  - 3.3 ネット常識 3 (個人情報保護)
  - 3.4 ネット常識 4 (危険なサイト)
- 4. 携帯インターネット(利点・欠点)
  - ⑦ 親と子どもの認識のズレ
  - ⑧ 家庭でのルールを話し合おう！
- 5 安心インターネットライフを！！

お話しする前に三つのお願い

最後まで、次の三つのことを忘れないでください。

- インターネット技術やパソコン、携帯電話は人と人のコミュニケーションを豊かにし、日常の生活や勉強、仕事に役立つ、便利で楽しい21世紀の文明の利器(道具)である。
- インターネットや携帯電話等を介して起きている問題の多くは、現在の日本が抱えている社会問題・家庭問題等に根ざしており、子どもを見守り、育て大人の責任である。
- 児童・生徒が使うインターネットやパソコン、携帯電話は、オモチャのように扱い与えたものではなく、朝や学校が子どもに一時的にしているものである。従って、家庭や地域社会で守るべきルールやマナーがあるのは当然である。

1. インターネットで広がる世界(仕事・生活)



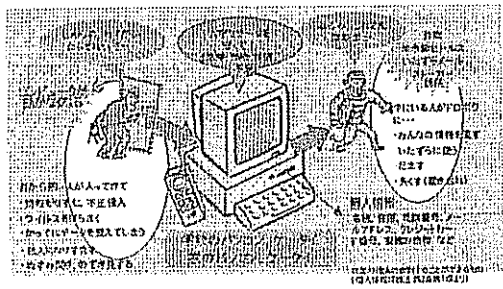
2. ネット社会では何が起きているの？

インターネットやケータイは上手に正しく使うと、私たちの生活や勉強に大変役立つ便利な道具です。反面、インターネットには危険なワナが仕掛けられています。どのようなワナがあるのか、どうして避けたいのか、自分自身や家族・友達を守るために必ず身につけておきたい、「ネット社会の7つの常識」についてお話しします。

【自動車の交通ルールとよく似ています】  
 私たちは自動車と道路のおかげで、好きなところへ旅行がしたり、離れた場所の野菜や魚を全国に運んだりできます。でも、運転する人や歩行者が決められた交通ルールを守らないと、事故や犯罪が発生します。被害者になる場合も加害者になる場合もあります。だから、車社会では運転する人も歩く人もどちらも交通ルールとマナーをきちんと守ることが大事なのです。

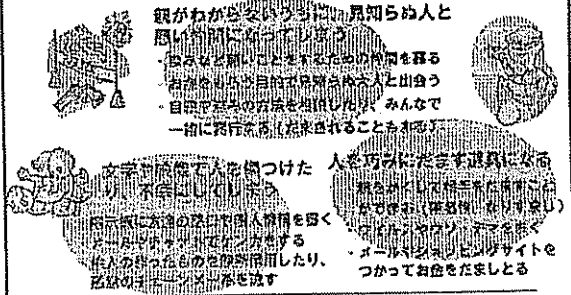


## 危険！情報がねらわれている



9

## 子どもを狙うネットの危険な落とし穴



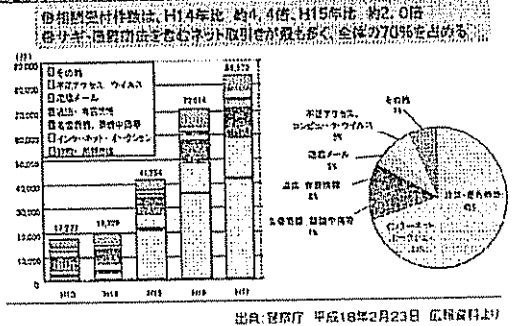
10

## サイバー犯罪の特徴

1. 悪い仲間を簡単に作れるメディア  
援助交際、親父狩り、暴行、暴走、殺人、窃盗の計画・教唆
2. 情報で人を傷つけたり、不幸にできるメディア  
掲示板への書き込み、メールやチャット等による誹謗、中傷、脅迫、迷惑メール、プライバシー権侵害、著作権侵害
3. 人をだますことができるメディア  
架空請求、フィッシング詐欺、ワンクリック詐欺、ネットショッピング詐欺、コンピュータウイルス、ねずみ罠・悪意マルチ商法、デマ・噂
4. 欲望を刺激するメディア  
早稲西便、出会い系活用、麻薬や劇薬・爆発物・銃砲の製造関与

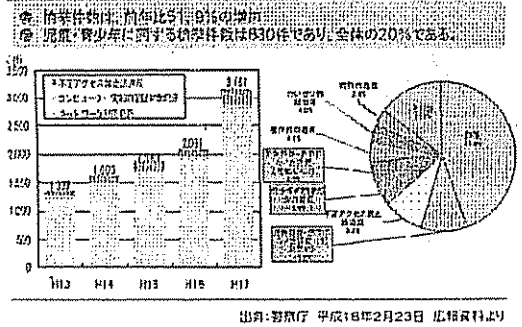
11

## サイバー犯罪発生状況(相談受付)



12

## サイバー犯罪発生状況(検挙件数)



13

## 3. ネット社会の7つの常識

頁 2,6,7ページ

1. インターネットは自己責任の世界です  
⇒(英社会) 自分の発言や行動には自分で責任を持つ
2. すべての情報発信は匿名な状態で  
⇒(英社会) 自己中心的にならず、相手のことを思いやる配慮を待つ
3. むやみに個人情報を公開しない  
⇒(英社会) 知らない人に自分のことや家族のことをむやみに話さない
4. 危険なサイトに近づかない、利用しない  
⇒(英社会) 危険な場所には近づかない、悪いところは気をつける
5. 著作権・肖像権などを侵害しない  
⇒(英社会) 名前や著作権・肖像権など人の権利を侵害しない
6. コンピュータウイルスへの対策を講じる  
⇒(英社会) 自宅の防壁や病毒対策を行ない、万一の備えもしておく
7. ID、パスワードはしっかり管理  
⇒(英社会) 云のガキやクレジットカードはなくさない、人に預けない

14

## 3.1 ネット常識その1「自己責任」

インターネットは自己責任の世界です

日常生活・行動  
自分の発言や行動には自分で責任を持つ

インターネットの世界は顔や声が見えません。また、悪いところがあることがわかりません。インターネットには悪意のある人も増えています。ネット詐欺や迷惑メール、コンピュータウイルスの被害が、一転して他人への被害者になることもあります。ネットの世界では英社会以上の責任ある行動が必要で

15

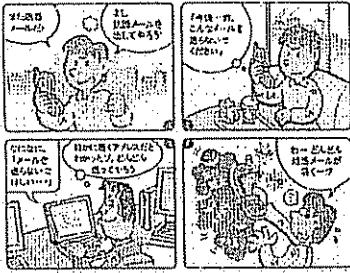
## インターネット利用上の3つの能力

- 目 ホームページや電子メールに書かれている情報は正しいか嘘か、安全なサイトか危険か、使って良いか悪いを見分ける「判断力」
  - 目 出会い系サイトや違法・有害サイトなどへ安易にアクセスしない、ガマンできる「自制力」
  - 目 ネットを利用して自分が行った言動で発生したトラブルには社会的な責任を負う「責任力」
- ⇒あなたのお子様の「判断力」、「自制力」、「責任力」は大丈夫ですか？
- 保護者の方へ ⇒社会経験が少なく、善悪の判断や危険を察知する力が弱い子どもたちは、親がしっかり見守り、指導し、悪意のある場合責任をとる覚悟が必要です。

16

### 広告・宣伝の電子メールが毎日大量に届いて困る

電子24ページ

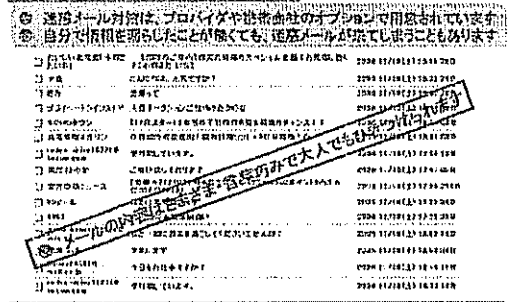


#### トラブル事例

1. メールアドレスを不用意に公開しない
2. 返信や転送は絶対しない。届くのがわかってしまう
3. 迷惑メールの拒否サービスを利用する

17

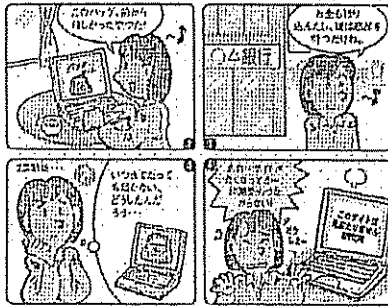
### 迷惑メールの例 私の自宅用メールでの実例



18

### お金を支払ったのに注文した商品が届かない

電子34ページ



#### トラブル事例のヒント

1. 小・中学生は、ネットショッピングやオークションはしない
2. 欲しいものは先に相談して、代行してもらう
3. 通常の口座で買物をして、売上の利益を預けたいことが大半

19

### 3.2 ネット常識その2「思いやりと謙虚さ」

すべての情報発信は謙虚な姿勢で

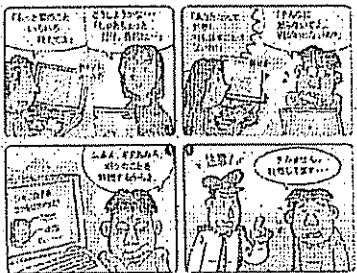
日常生活・行動  
自己中心的にならず、相手のことを思いやる謙虚さを持つ

インターネットでは、やりとりする相手は機械ではなく、人間を持った人間です。電子メールやホームページの文庫、掲示板やチャットでの発言では、相手を傷つける過激な内容になっていないか、常識的であるか、返信する前に一度読み返してください。悪意ばかりでなく、意図で書いたことが大抵な迷惑になることもあります。十分に注意して発言してください。

20

### 何気ない一言が最悪のトラブルにつながる

電子10ページ



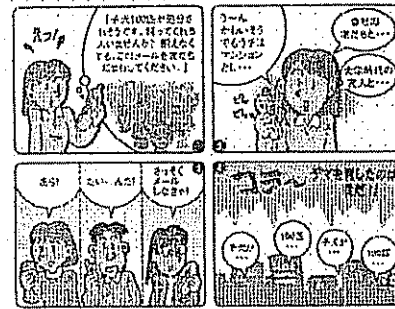
#### 誘惑・中傷

- 文字の力でも、あまりにひどいと罪に問われる。
- 名誉毀損
- 信用毀損
- 威力脅迫妨害
- 侮辱罪
- 脅迫罪
- 銀行罪の教唆

21

### 転送を促す電子メールにご用心!?

電子26ページ



#### 問題: オートアップ

1. 受け取った人が不快、不安になる迷惑行為  
→「不平等な手紙」
2. 人の尊厳や好奇心を利用する卑劣な行為  
→「迷惑の手紙」
3. 身近な信頼できる人に相談する

22

### 3.3 ネット常識その3「個人情報保護」

むやみに個人情報を公開しない

日常生活・行動  
知らない人に自分のことや家族のことをむやみに話さない

ネットショッピングや会員制のサイトの利用などで、個人情報(氏名や住所、電話番号など)を知られることがあります。それによって生じる危険があることを常に考えてください。特に掲示板やチャットなどでは不用意に個人情報を公開してはいけません。

2005年4月から、「個人情報保護法」が本格施行されました。

23

### 個人情報が盗まれると、どんなトラブルに遭う!?

電子12ページ



#### 盗まれる個人情報のトラブル

- 迷惑メール
- 架空請求
- クレジットカード詐欺
- 電話中傷
- ネットストーカー
- 振り込み詐欺

注: マイホームページ、ブログ、掲示板、チャットでは個人情報を公開しない

24

### 身に覚えのない請求メールが届いた 頁子28ページ

**トラブル事例のポイント**

1. アダルトサイトや出会い系サイトを利用しない
2. 個人情報の流出に注意する
3. 架空請求の電子メールを見逃し、返信しない

25

### 3.4 ネット常識その4「危険なサイト」

危険なサイトに近づかない、利用しない

日常生活・行動  
危険な場所には近づかない、暗いところは鍵をつける

インターネット上の多くのトラブルがアダルトサイトや出会い系サイトをきっかけに起こっています。特に18歳未満の子どもの出会い系サイトの利用を法律により禁止されています。初めは悪戯からインターネット関連のトラブルがエスケール、危険なサイトに近づかない、利用しないように指導する責任があります。

26

### 楽しいはずの出会いが凶悪事件につながっている 頁子14ページ

**トラブル事例のポイント**

1. 出会い系サイトの勧誘メールは即削除!
2. 出会い系サイトは利用しない
3. フィルタリングソフトや携帯電話会社のアクセス制限機能を利用する

27

### 出会い系サイトに関する事件(検挙数)

検挙数1,501件のうち44.7%が児童買春・児童ポルノ禁止違反  
被害者1,207人のうち18歳未満が1,001人(83.7%)、そのうち女子児童が98.2%

出典:警察庁 平成18年2月16日 広報資料より

28

### インターネットなら何を買っても大丈夫? 頁子38ページ

**トラブル事例のポイント**

1. 小・中学生はネットショッピングやオークションはしない
2. 現実社会で送金なものや有価なもの、ネットでも買ってはいけない

29

### 「家庭でのネット放任主義!？」

2004年度日本PTA全国協議会調査結果より(2004年11月10日～12月17日)  
「青少年とインターネット等に関する調査」【小5】【中2】各3,000人、保護者各3,000人

**調査結果(児童・生徒回答)**

- ・携帯電話・PHSの保有率(全国平均)⇒【小5】11.0% 【中2】35.0%
- ・出会い系サイトや未承諾広告の受信経験 ⇒【中2】25.7%
- ・出会い系サイトを利用していることを親に全く話さない ⇒【中2】60.0%
- ・インターネット利用時に保護者は、「何もしず、自由にさせてくれる」 ⇒【小5】67.1% 【中2】63.6%
- ・フィルタリングソフトを知らない ⇒【小5の保護者】82.4% 【中2の保護者】62.1%

※フィルタリングソフト:違法・有害なサイトへのアクセス制限を行うソフトウェアのこと

30

### フィルタリングの種類

- フィルタリングソフト
- サーバでフィルタリング
- インターネットプロバイダサービス(パソコン、携帯)
- 子どものための検索エンジン
- ウィルス対策ソフト

フィルタリングを使うと、情報を検索する際、有害なウェブページを表示させないようにすることが出来る。子どものインターネット利用を制限できる(100%完全ではない)

31

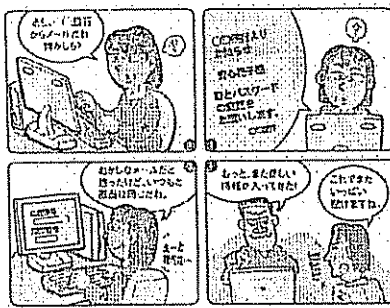
### 携帯電話でのフィルタリング機能

アダルトサイトなどへのアクセスも制限に役立ちます。

32



### 銀行などを装った偽のホームページに注意



1. 不審な電子メールに返信しない
2. 個人情報を不用意に入力しない
3. 企業の窓口と直接問い合わせる
4. フィッシング110番へ連絡する  
警察庁、全国の都道府県警察本部のリバーウォッチ窓口

### 4. 携帯インターネット(利点・欠点)

利点	利点	危険な側面(悪い)
便利で面白い	面白い	危険にはある。危険は無い。(中学生には)
→ 友達とつながる	→ 発信や自己表現	→ 危険にはある。危険は無い。(中学生には)
→ 友達とつながる	→ 発想や自己表現	→ 危険にはある。危険は無い。(中学生には)
→ 友達とつながる	→ 発想や自己表現	→ 危険にはある。危険は無い。(中学生には)
→ 友達とつながる	→ 発想や自己表現	→ 危険にはある。危険は無い。(中学生には)

### 親と子どもの認識のズレ(携帯電話の保有動機)

子どもの認識	保護者の認識
<b>【小学生】</b> 1位: 友達とつながる 2位: 友達とつながる 3位: 友達とつながる  <b>【中学生】</b> 1位: 友達とつながる 2位: 友達とつながる 3位: 友達とつながる  <b>【高校生】</b> 1位: 友達とつながる 2位: 友達とつながる 3位: 友達とつながる	<b>【小学生】</b> 1位: 子どもの居場所確保 2位: 緊急連絡用 3位: 家族コミュニケーション  <b>【中学生】</b> 1位: 緊急連絡用 2位: 子どもの居場所確保 3位: 家族コミュニケーション  <b>【高校生】</b> 1位: 緊急連絡用 2位: 子どもの居場所確保 3位: 家族コミュニケーション

### 我が家のルールを話し合おう! (事例)

1. コンピューターは家族設備です。おかしくなった時はすぐに知らせよう。  
→ 怪しい画面になったら「X」しよう。それでも直らなからスイッチを切るよう。  
→ 動かなくなった時は、画面や文字を写さずとめてからスイッチを切るよう。
2. アーティストにはお礼をしよう。  
→ 音楽でもソフトでも、作った人はこれで生活しています。著作権にはお金を払おう。  
→ お金が無いと音楽は聞けない。足らない時はレンタル。でも有料や盗版は買っちゃダメ。
3. 知らないメールは絶対に開けない。  
→ 開かない、開けない、開通して開けた時はすぐに知らせよう。
4. 情報は一度入力したら取り消してできないと思え。  
→ ネット上での入力は残をつけて、特に買い物は事前に関与する。
5. 携帯は自分のお小遣いで。

### 5. 安心インターネットライフを!!

最後まで忘れないでとお願いした、次の三つのこと

- インターネット技術やパソコン、携帯電話は人と人とのコミュニケーションを豊かにし、日常の生活や勉強、仕事に役立つ、便利で楽しい21世紀の文明の利器(道具)である。
- インターネットや携帯電話等を介して起きている問題の多くは、現在の日本が抱えている社会問題・家庭問題等に根ざしており、子どもを見守り、育てる大人の責任である。
- 保護者・生徒が使うインターネットやパソコン、携帯電話は、オモチャのように買い与えたものではなく、親や学校が子どもに一時貸しているものである。従って、家庭や地域社会で守るべきルールやマナーがあるのは当然である。

### 5. 安心インターネットライフを!!

インターネット上での行動は、日常生活での行動と同じです  
 □ インターネットを安心・安全に使うには、私たちが日常、人との付き合いの中で身につけている危険を察知して避けたり、他人を助ける言葉遣いや行動がそのまま当てはまります。

□ 子どもさんとよく話し合ってください  
 □ インターネットという道具は本来何のために使うか、危険はどこに潜んでいるのか、我が家のルールはどうしようか、などをよく話し合ってください。お話し合いの機会でもあります。

□ インターネットは怖くない!  
 □ インターネットは怖い、怖いとばかりは思わないでください。「ネット社会の7つの指針」を守って、万が一困ったこと、嫌なことがあったら、お父さんやお母さん、先生にすぐ相談するようにしてください。

□ ネット上のルールとマナーを作ってきたのと同様に、ネット社会の秩序や行動規範を皆さんと一緒に作っていきたいと思います。

### 【お知らせ】テキスト、ガイドブックについて

- ★ 総務省 国民のための情報セキュリティサイト 情報セキュリティ対策室  
[http://www.aanet.go.jp/sho\\_seu/inf/assurty/index.html](http://www.aanet.go.jp/sho_seu/inf/assurty/index.html)
- ★ FEMAC 「安心インターネットライフガイド(改訂版)」  
<http://www.ef.or.jp/guide/index.html>
- ★ FEMAC 「秋田ビジネス電子メール活用ガイド」  
[http://www.ef.or.jp/mail/em\\_guide/index.html](http://www.ef.or.jp/mail/em_guide/index.html)
- ★ FEMAC 「秋田ビジネス電子メール活用ガイド<eラーニング版>」  
[http://www.ef.or.jp/mail/em\\_guide.html](http://www.ef.or.jp/mail/em_guide.html)
- ★ Incheon 「インターネットを利用するためのルールとマナー集(子ども版)」  
<http://www.incheon.org/multicultural/child.html>
- ★ Incheon 「インターネットにおけるルールとマナー(子ども版)公式テキスト」  
<http://www.incheon.org/textbook.html>